185　アカマタ聟入（浜下り由来）

娘子ぬ、ちゃー部屋なかい寝とーいねー、節ぬみー
みーぐわーからが入らわからんしが、開きーしんわか
らんしが、入っち来しんわからん。
あんさるむん、出じてい来しんわからん、入っち来
しんわからんしが、くぬ娘子が、妊娠ぎとーるばー。
あんし、見ちんでいわるやるんち、節ぬ穴ぐわー。
とぅじてーたんでい、んーとーくれー、アカマターる
やるんち、うにねー気に付てーんてーやー。
あんすくとぅ、うまぬ、物知りパーパーんかい、
「入っち来しん、出じてい去いしん、わからんしが、
私ねー、妊娠ぎとーんでー」んちゃくとぅよー。
「とー、今日、夜、来るはじやくとぅ、針ぬ目んかい
糸まちゅてい、うりが頭んかい、ちちぬきよー、ちゅ
らすがいし来る男んかい、糸追うらちさとぅりよー」

娘が、いつも部屋に寝ている時に、節穴から入って来るのか、どこから入って来るのかわからないが、入って来るのもわからなかったそうだ。

そうだが、出て来るのも、入って来るのもわからないが、この娘が、妊娠したそうだ。

それで、確かめてみようと、節穴をとじたそうだ。すると、ああこれは、アカマターにちがいないと、そのとき気付いたんだそうだ。

それでね、そこの、物知りお婆さんに、

「入って来るのも、出て行くのも、わからないが、私は妊娠しています」と言うと。

「では、今日も、夜になると、来るはずだから、針の目に糸を巻いておいて、その人の頭に、突き刺しなさいよ、きれいにしてくる男に、そしてその糸を追って

んちゃくとぅ、行じゃくとぅよー、穴やたんでい。
あんすくとぅ、くぬ糸追てい行じゃくとぅ穴なてい、
石ぬみーんていパタパターしアカマターやたんでい。
三月三日なたくとぅ浜下りやーに、浜砂ふみーねー
出てい去いんどーんでい、あんしちゃくとぅ、さーら
さーらーし、出じてい去いたんでい。
あんすくとぅ、三月三日ねー、浜行じ、潮蹴りよー
んでい、潮蹴りんでい、あんさーに、三月三日や節日
なたんでいよー。

字小波蔵　伊敷カミ

確かめなさい」と言うので、追って行くと、穴だったそうだ。

そうして、その糸を追って行くと、穴になっていて、その石の中でバタバタしているアカマターがいたそうだ。

三月三日になったので、浜に下りて、砂をふむと、アカマターの子が下りてきたそうだよ、そして、サラサラ、下りてきたそうだよ。

それで、三月三日には、浜に行って、潮を蹴りなさいよ、潮を蹴りなさいと、それで、三月三日は節句になったそうだ。